

振替払込  
受付証明書  
(E票)  
貼付欄

必ず郵便局・銀行  
等の窓口で振り込  
みください。

**申込場所**

北海道大学高等教育推進機構1階 6番公開講座窓口

**実施会場**

北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室

札幌市北区北17条西8丁目  
地下鉄「北18条」駅下車徒歩9分(約500m)  
中央バス「北18条西5丁目」下車徒歩7分(約400m)



●自家用車での来学について  
駐車場狭陰のため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構願います。その際、入り口ゲートで発券された入構精算券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

平成26年度  
**北海道大学**  
**公開講座** 全学企画

テーマ **安全・安心な**  
**社会とくらしを創る**

**申込期間** 平成26年 6/2月 ▶ 6/24火  
(土曜・日曜を除く) 9:00~17:00

**実施期間** 平成26年 7/3木 ▶ 7/31木  
18:30~20:30

**会場** 北海道大学情報教育館3階  
スタジオ型多目的中講義室  
(札幌市北区北17条西8丁目)

**受講料** 5,000円



**講師略歴**

第1回	スラブ・ユーラシア 研究センター 教授 岩下 明裕 (いわた あきひろ)	1962年生まれ。専門はポードースタディーズ・国境学。冷戦終結後10年にわたって中・口国境を現地調査し「中・口国境4000キロ」角川選書(2003年)を刊行。『北方領土問題:4でも0でも、2でもなく』中公新書(2005年)で第6回大佛次郎論壇賞(2006年)および第4回日本学術振興会賞(2007年)を受賞。最新作に「これが解決策:北方領土・竹島・尖閣」(朝日新書)。
第2回	医学研究科 教授 大滝 純司 (おおたき じゆんじ)	1958年新潟県生まれ。1983年筑波大医学専門学群卒業。川崎大医大研修医、筑波大講師、北海道大助教授、東京大助教授、東京医大教授を経て、2012年より北海道大大学院医学研究科教授。医師。博士(医学)。専門は医学教育学、総合診療医学。主な編者書に「OSCEの理論と実際」(篠原出版社、2007年)、『考える身体診察』(文光堂、2011年)、『外来発熱診療ガイド』(丸善出版、2012年)など。
第3回	教育学研究科 教授 水野 眞佐夫 (みずの まさお)	1954年福岡県生まれ。1977年玉川大学教育学部卒業、1980年日本体育大学大学院体育学研究所修士課程修了、1990年デนมーク・コペンハーゲン大学大学院自然科学研究科PhD取得。同大学医学部専任講師(医科生化学)、州立病院研究部長を経て2006年より北海道大大学院教育学研究科(現研究科)教授。専門は筋生理学・体力科学。研究テーマは、身体トレーニングの効果を高めるスポーツ栄養学。
第4回	歯学研究科 准教授 高橋 茂 (たかはし しげる)	1962年千葉県生まれ。1988年北海道大学歯学部卒業。1992年北海道大大学院歯学研究科修了。北海道大学歯学部助手、オーストラリアクイーンズランド大学医学部研究員(文部省在外研究員)、北海道大大学院歯学研究科助教を経て、2009年より同准教授。専門は口腔解剖学。唾液腺障害と再生、食物性状が口腔諸組織に与える影響などに関する研究に取り組んでいる。
第5回	経済学研究科 教授 西部 忠 (にしべ まこと)	1986年東京大学経済学部卒、1989年カナダ・ヨーク大学大学院経済学研究科修士課程修了。1993年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。1994年北海道大学経済学部助教授、2007年同経済学研究科教授。専門は進化経済学。著書に『貨幣の謎』(2014年)、『地域通貨』(編著、2013年)、『資本主義はどこへ向かうのか』(2011年)、『進化経済学基礎』(共編著、2010年)他。
第6回	理学研究科 教授 鈴木 德行 (すずき のりゆき)	1953年生まれ。1981年東北大学理学研究科博士後期退学。1981年島根大学理学部助手。1989年同助教授。1994年北海道大学理学部助教授。2001年より現職。1987-1988年オクラホマ大学招聘研究員。理学博士。専門は炭化水素の地球惑星科学。経産省資源エネ庁、国内基礎調査実施検討委員会委員。JOGMEC資源機構、基礎試錐技術安全諮問委員会委員長。共著書『天然ガスのすべて』(コロナ社)。
第7回	農学研究科 教授 川村 周三 (かわむら しゅうぞう)	1954年広島市生まれ。高校卒業後、北海道大学農学部にあこがれて札幌へ。大学院修了後、北大農学部の先生となり、現在に至る。美味しく安全で健康に良い食べ物をメインテーマとし、とくに米の収穫以後の乾燥調製貯蔵加工技術と食味の研究、青果物の貯蔵や鮮度保持の研究、食品の殺菌や微生物制御の研究をしています。
第8回	情報科学研究科 准教授 小柳 香奈子 (こやなぎ かなこ)	京大大学院理学部卒業、京大大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。生物情報解析研究センター特別研究員、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手を経て、2004年より現職。専門は分子進化学、ゲノム科学。ゲノム情報解析から、遺伝情報と表現型との関連や生物多様性・進化・個体発生過程の解明を目指している。

テーマ

# 安全・安心な社会とくらしを創る

## 講座内容

自然災害や原発事故、食品偽装、さらには近隣諸国との領土問題など、私たちの安全・安心をおびやかす出来事が相次いでいます。また、少子高齢化や経済のグローバル化など、社会の持続可能性をリスクにさらす変化も勢いを増しています。こうした中で、あらためて安全・安心を創り出すべく各分野でどのような研究や技術開発がなされているのか、また国際関係や経済の世界でどのような新しい動きが生まれつつあるのか、第一線の研究者がお話します。

申込期間	平成26年6月2日(月)～平成26年6月24日(火) 《土曜・日曜を除く》9：00～17：00
------	--

実施期間	平成26年7月3日(木)～平成26年7月31日(木) 18：30～20：30
------	---

定員	100名
----	------

受講料	5,000円 <small>※専用の払込票にてお支払いください。振替払込受付証明書(以下、E票)は、受講申込書の所定の位置に貼付のうえ提出願います。なお、既納の受講料はお返しできませんのでご了承ください。</small>
-----	---

会場	北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室 (札幌市北区北17条西8丁目)
----	--

受講資格	18歳以上の方であればどなたでも受講できます。 (学歴・職歴は問いません)
------	--

特定回の受講	全8回の講義のうち、定員に余裕がある場合は、特定回のみ単発で受講することが可能です。希望される講義の開催3日前までに問い合わせ先までご連絡ください。なお、特定回の受講料は1回あたり1,500円です。
--------	---

修了証書	6回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。
------	---------------------------------

道民カレッジ	本講座は道民カレッジ連携講座として指定されています。 (教養コース 16単位)
--------	--

## 申込手続きの流れ

- はじめに、定員の超過の有無をご確認ください。
  - 定員に余裕がある場合
- 専用の払込票により、郵便局または銀行等の窓口で受講料をお支払いください。その際、控えとして受け取った「振替払込受付証明書(以下、E票)」は、受講申込み時に必要です。ご注意ください。
- E票を裏面に添付した受講申込書を直接窓口へご持参いただくか、郵送でお申し込みください。

問い合わせ・申込先	国立大学法人北海道大学学務部学務企画課(教育支援担当) 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育推進機構 1階 6番公開講座窓口 電話 011-706-5567(直通)
-----------	---

日程	講義題目	講師	講義概要
第1回 7/3木	国境と人々の暮らし	スラブ・ユーラシア 研究センター 教授 岩下 明裕	安全・安心、つまりセキュリティは国際関係では安全保障という言葉になる。これは国家や戦略を軸に語られるのが通常だが、人々の日常のなかでも考える必要がある。とくに北海道には稚内、根室などの国境地域があり、領土や海の境界問題が懸念だ。本講義では、北のみならず、南は沖縄、西は九州の境界地域に暮す人々が直面するチャレンジを学び、生活の目線にたったボーダーとセキュリティの提言を行う。
第2回 7/7月	医学教育の国際的な標準化の動向とその課題	医学研究科 教授 大滝 純司	医療人材養成には様々な課題があります。中でも迅速な対応を迫られているのが、医師を養成する医学教育の国際的な標準化です。EUや中国、そして北米が先導して、医師の能力や医学教育システムの質を担保しようという圧力が増えています。この講義では、医療人材養成の国際基準が必要になった理由や、その制度化の状況と課題等について紹介します。また、このような動きが医療の現場にもたらす変化などについても触れます。
第3回 7/10木	アクティブ・エイジングのための健康体力科学 “運動で奏でようからだ 心のハーモニー”	教育学研究院 教授 水野 眞佐夫	今年の公開講座のテーマである「安全・安心な社会とくらしを創る」ことに取り組むのは個々であり、各人の心身の健康の保持・増進がこの実践を支える一つの要因と言えるであろう。本講演は、日常生活における運動習慣の形成の重要性について、「生存」レベル、「保護」レベル、「発達」レベルの3つの視座からまとめて、からだと心のハーモニーを奏でることを実現できるアクティブエイジングへの秘策について考えてみたい。
第4回 7/14月	健康の安心は口腔から 口腔の安心は唾液から	歯学研究科 准教授 高橋 茂	安全・安心な社会やくらしを創るには個人の健康が欠かせません。健康を維持するために私たちの体では様々な器官が協調して動いていますが、口腔もその1つです。従って口腔を健全な状態に保つことは大切であり、これに大きく貢献しているのが実は唾液なのです。本講義では日頃あまり意識することのない唾液とそれを分泌している唾液腺の知られざる能力およびこれらを応用した唾液・唾液腺研究の今についてお話したいと思います。
第5回 7/17木	経済のグローバル化・ 脱工業化と地域通貨	経済学研究科 教授 西部 忠	21世紀に入り、市場経済のグローバル化・脱工業化・金融カジノ化が経済を不安定にし、人びとの生活をおびやかしています。1980年代以降、欧米や日本だけでなく、途上国の多くの地域で、地域経済を活性化するとともに地域コミュニティを再生・賦活するためのシステムとして地域通貨が数多く試みられています。地域通貨の仕組み、目的、意義や役割について、世界や日本における実際の事例を紹介しながら説明したいと思います。
第6回 7/24木	エネルギーシフトの時代 －天然ガスの台頭	理学研究院 教授 鈴木 德行	2012年現在、石油と天然ガスの可採年数はそれぞれ約53年、約56年である。シェールガス開発が本格的になりつつあり、天然ガスの可採年数がどれだけ増えるのか計り知れない。しかし、それと日本のエネルギー安全保障とは別問題である。周到な外交や再生可能エネルギーへの投資とともに、世界の資源エネルギー開発に挑戦することがますます重要になっている。現在の資源エネルギー事情と日本の技術力について解説する。
第7回 7/28月	食品添加物の誤解	農学研究科 教授 川村 周三	皆さんは「食品添加物」に対してどのようなイメージを持っていますか？ 何となく危なそうなので「無添加」の食品の方が安全だろう、食品添加物は「安全」と言われても「安心」できない、と思っている方も多いかもしれません。この授業では、食品添加物の種類、食品添加物の安全な摂取量(許容1日摂取量)などについてお話します。また、生野菜(カット野菜)の殺菌(食品添加物で殺菌する)についても話をします。
第8回 7/31木	「ゲノム」を考える	情報科学研究科 准教授 小柳 香奈子	「ゲノム」とは、個々の生物が持つ遺伝情報の総体であり、その生物を規定するものです。近年の技術革新により、個人が自分のゲノムを調べることができる時代が到来しつつあります。ゲノム情報の利用は、病気予防などのメリットがある一方で、悪用によるデメリットも懸念されています。ゲノムに関する基礎知識をわかりやすく解説し、どのようにしてゲノム情報を安全に安心して利用できるか考えることができればと思います。

## 自家用車での来学について

駐車場狭隘のため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構願います。その際、入り口ゲートで発券された入構精算券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

平成26年度 北海道大学公開講座	
受講申込書	
フリガナ 氏名	年代  (__0歳代) 男・女
〒	
現住所	
TEL ( )	-

(アンケート)下記に該当する部分に○をつけてください。

問1. あなたはこの講座をどのようにして知りましたか。

1. 新聞  2. インターネット  3. 受講案内(直接送付されたもの)  4. 受講案内(学習センター・図書館・ちえりあに置いてあったもの)  5. 受講案内(ふれあい広場に置いてあったもの)  6. 道民カレッジガイドブック・ホームページ  7. 友人・知人からの誘い  8. その他( )

問2. 受講を申し込むにあたり、どなたかを誘われましたか。

1. 友人  2. 知人  3. 家族  4. その他

問3. 誘った結果はどうでしたか。

1. 申し込んだ  2. 申し込みなかった  3. わからない

問4. あなたは過去に大学が主催する公開講座を受講したことがありますか。

1. ある  2. ない

問5. 問4で「ある」と答えられた方は、以下から該当するものを全てお選びください。

1. 北海道大学の全学企画の公開講座を受講したことがある。  
 2. 北海道大学の各研究科等が主催する公開講座を受講したことがある。  
 3. 北海道大学以外の大学公開講座を受講したことがある。

問6. あなたは道民カレッジの学生になっていますか。

1. はい カレッジ生番号( )  2. いいえ

問7. 今後、受講案内の送付を希望しますか。

1. はい  2. いいえ

・担当者記入欄

日付	番号
----	----

※申込書に記入した個人情報は大学の行事等の案内以外には利用いたしません。